

教育庁実施事業改善調査書（平成19年度実施事業）

義務教育課（内線5225）

事業名	ことばであそぼう推進事業	事業開始年度	平成19年度																						
事業の目的	思いや考えを書く活動を通して言葉(国語)への好奇心をもたせるとともに、言葉(国語)のよさに気付かせて、相手を理解したり自分を表現したりする力などの「国語力」を育成する。																								
事業の概要	1 「漢字一字からの思い」づくり（週に1回） 小学3年生対象 ・児童が、自分で選んだ漢字一文字について、短作文を書き、思いを深めることで、書写の活動を意欲的に取り組み、「書く・書写・話す」の一連の言語活動を実践する。 2 リーフレットの作成と配布 「ことばであそぼう」推進の手引きリーフレットの作成・配布 ・配布対象 県内公立小学校の1～3年生及び75条学級の全児童及び担任教員 3 作品の展示・発表 ・各小学校において、いばらき教育月間に作品の校内展示を行い、児童相互に学習を深められるようにする。 ・2月に各市町村教育委員会より各学年1点の参考作品を募集し、それらの作品を県教委HPに掲載して国語力育成について県内への普及を図る。 《参考》 「ことばカルタ」づくり（学期に1回） 小学1年生対象 「絵てがみ」づくり（月に1回） 小学2年生対象																								
期待される効果	「ことばであそぼう推進事業」を、小学校1年生から3年生まで実施することにより、本年度から中学生にまで拡充した「みんなにすすめたい一冊の本推進事業」と併せて、小学校1年生から中学校3年生まで、9年間を通じて、系統的に国語力の育成を図ることができると考える。																								
アンケート調査結果	今回は、ことばであそぼう推進事業の「漢字一字からの思い」づくり（小学3年生）についてアンケート調査を実施し、効果測定や今後の方向の検討を行った。 調査対象 児童生徒：「漢字一字からの思い」づくりを行った児童 6校 = 165人 教員：「漢字一字からの思い」づくりを指導した教員 177校 = 177人 保護者：「漢字一字からの思い」づくりを行った児童の保護者 6校 = 165人  1 ことばであそぼう推進事業の有効性（児童の回答） 活動を通して漢字への自分の思いを深めることができましたか。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>そう思う</td> <td>55%</td> </tr> <tr> <td>少し思う</td> <td>33%</td> </tr> <tr> <td>あまり思わない</td> <td>8%</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>4%</td> </tr> </table> 2 有効であった内容（児童、教師、保護者の回答） 「漢字一字からの思い」づくりの活動の様子について（「そう思う」と「少し思う」の合計） <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3">・興味をもって漢字を選んでいる。（選んだ）</td> <td>児童</td> <td>93%</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>99%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・漢字から想像できることを作文にすることは楽しい。（楽しそうだ）</td> <td>児童</td> <td>88%</td> </tr> <tr> <td>教員</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>80%</td> </tr> </table>			そう思う	55%	少し思う	33%	あまり思わない	8%	そう思わない	4%	・興味をもって漢字を選んでいる。（選んだ）	児童	93%	教員	99%	保護者	86%	・漢字から想像できることを作文にすることは楽しい。（楽しそうだ）	児童	88%	教員	96%	保護者	80%
そう思う	55%																								
少し思う	33%																								
あまり思わない	8%																								
そう思わない	4%																								
・興味をもって漢字を選んでいる。（選んだ）	児童	93%																							
	教員	99%																							
	保護者	86%																							
・漢字から想像できることを作文にすることは楽しい。（楽しそうだ）	児童	88%																							
	教員	96%																							
	保護者	80%																							

	<p>・できあがった作品を、興味をもって読み合ったり紹介し合ったりしている</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>児童</td><td>90%</td></tr> <tr><td>教員</td><td>99%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>81%</td></tr> </table> <p>・活動を通して自分の思いを深めている(ようだ)</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>児童</td><td>88%</td></tr> <tr><td>教員</td><td>93%</td></tr> <tr><td>保護者</td><td>72%</td></tr> </table> <p>3 本事業が県教育委員会の事業であることの認知度</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td style="text-align: center;">知らなかった 81%</td> <td style="text-align: center;">知っていた 19%</td> </tr> </table> <p>4 自由意見</p> <p>(1) 楽しかった、もう一度やってみたい学習(児童から) 意見多数のもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お世話になった方にお礼を書く学習</li> <li>・漢字ドリルを使った学習</li> <li>・漢字を使ったゲーム形式の学習</li> </ul> <p>(2) 改善した方がよいことなど。(教師から) 意見多数のもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を覚えたり興味をもたせるのに有効だが、週1回の時間をとるのが難しい。</li> <li>・活動が単調になりやすいので、活動を工夫したい。</li> <li>・興味をもった漢字だけでなく多くの新出漢字に取り組みさせることができるとよい。</li> </ul> <p>5 調査結果の分析</p> <p>(1) 事業の有効性について、「漢字への思いを深めることができたか」という質問に対して、児童の88%が、「そう思う」あるいは「少し思う」答えている。</p> <p>(2) 有効であった内容について、「漢字一字からの思い」づくりの活動の様子について、90%以上の教員が、「興味を持って漢字を選んでいる」等児童の活動について肯定的にとらえている。保護者は、教員の数値と比べると10%から20%程低くなっている。</p> <p>(3) 本事業の認知度について、保護者の81%が、本事業が県教育委員会の事業であることを知らなかった。</p> <p>(4) 自由意見について、楽しかった、もう一度やってみたい学習として、「お世話になった方にお礼を書く学習」や、「漢字を使ったゲーム形式の学習」をあげている児童が多かった。また、週に1回実施するのが難しいという意見があった。</p>	児童	90%	教員	99%	保護者	81%	児童	88%	教員	93%	保護者	72%	知らなかった 81%	知っていた 19%
児童	90%														
教員	99%														
保護者	81%														
児童	88%														
教員	93%														
保護者	72%														
知らなかった 81%	知っていた 19%														
関連データ	<p>教育課程実施状況調査から 全公立小学校調査(576校, H20.3.1現在)</p> <p>「ことばであそぼう推進事業」における校内展示について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した 96%</li> </ul>														
今後の方向	<p>1 事業の有効性、有効であった内容について、児童、保護者、教員の多くが、本事業の有効性を認めていることから、今後も、おおむね本年度と同様に実施する。</p> <p>2 本事業の認知度について、本事業が県教育委員会の事業として県全体で取り組まれていることが保護者に理解されるよう、県教育委員会HPや、みんなの教育(茨城放送)、教育いばらき(県教育委員会広報誌)等を活用し、より一層積極的な広報活動を行い、本事業がさらに充実して展開できるようにする。</p> <p>3 自由意見について、児童が、楽しかった、もう一度やってみたいとしている学習内容は、本事業と類似し、教育効果が期待されるため、これら各学校での取り組みが、さらに、児童が楽しいと感じられるような活動となるよう、指導主事等研究協議会などを通じ学校への助言を依頼する。</p> <p>4 週1回実施することが難しいという意見については、作成時間は授業の時間だけでなく、帰りの会や宿題とするなどの工夫が求められる。この点についての周知が十分図られていないので、実施要項への明記の仕方について改善する。また、その他、改善した方がよいことの見解については、今後の事業実施に取り入れていきたい。</p>														